

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 28 日作成)

委員会名	材料・構造耐火性小委員会	主 査 名：長尾 覚博
所属本委員会 (所属運営委員会)	防火委員会	委員長名：室崎 益輝
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>設置目的：改正建築基準法の性能規定化に伴い、適用可能な構造材料および構造形式の種類が拡大出来る可能性が増加した。それらの要求性能に適合する性能設計に活用出来る構造材料の火災時における高温性状の定式化を提案する。</p> <p>活動計画：</p> <p>2001 年度：各種構造材料の火災時を想定した高温性状に関する文献調査およびデータの収集</p> <p>2002 年度：各種構造材料の火災時を想定した高温性状の定式化の検討</p> <p>2003 年度：各種構造材料の火災時を想定した高温性状の定式化の提案</p> <p>2004 年度：提案成果をとりまとめ学会刊行物『構造材料の耐火性ガイドブック』ならびに学会講習会（平成 16 年 11 月 26 日開催）にて公表</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査：長尾 覚博 [(株)大林組 技術研究所]</p> <p>幹事：岡村 義徳 [(財)日本建築総合試験所 建築物理部]</p> <p>コンクリート材料 WG 主査：一瀬 賢一 [(株)大林組 技術研究所]</p> <p style="padding-left: 2em;">" 幹事：梶田 秀幸 [前田建設工業(株) 技術研究所]</p> <p>鋼材料 WG 主査：平島 岳夫 [千葉大学 工学部]</p> <p style="padding-left: 2em;">" 幹事：西田 浩和 [(株)フジタ 技術センター]</p> <p>木質系材料 WG 主査：大内 富夫 [鹿島建設(株) 技術研究所]</p> <p style="padding-left: 2em;">" 幹事：梅本 宗宏 [戸田建設(株) 技術研究所]</p> <p>アルミニウム材料 WG 主査：染谷 朝幸 [(株)日建設計 東京本社]</p> <p style="padding-left: 2em;">" 幹事：浦川 和也 [佐藤工業(株) 中央技術研究所]</p> <p>新材料 WG 主査：道越 真太郎 [大成建設(株) 技術センター]</p> <p style="padding-left: 2em;">" 幹事：西浦 範昭 [西松建設(株) 技術研究所]</p> <p>岡 義則 [化工機商事(株)]</p> <p>西田 朗 [清水建設(株) 技術研究所]</p> <p>森田 武 [清水建設(株) 技術研究所]</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>以下の 5 WG で構成し、構造材料種別毎にデータの収集および火災時を想定した高温性状の定式化の検討・提案をおこなうことを目的とする。</p> <p>コンクリート材料 WG</p> <p>鋼材料 WG</p> <p>木質系材料 WG</p> <p>アルミニウム材料 WG</p> <p>新材料 WG</p>	
2004 年度予算	1 6 6 0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>以下に小委員会の状況を示す(傘下の5WGについては除く)</p> <p>2004年</p> <p>4月15日(木)... 5名</p> <p>6月17日(木)... 11名</p> <p>7月15日(木)... 11名</p> <p>8月 3日(火)... 9名</p> <p>8月20日(金)... 14名</p> <p>9月29日(水)... 8名</p> <p>10月22日(金)... 10名</p> <p>11月12日(金)... 8名</p> <p>11月26日(金)... 『構造材料の耐火性ガイドブック』講習会開催</p> <p>12月10日(金)... 8名</p> <p>2005年</p> <p>1月28日(金)... 11名</p> <p>3月25日(金)... 9名</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>建築構造物における各種構造材料の内、代表的なコンクリート材料、鋼材料、木質系材料、アルミニウム合金、新材料について、火災時における材料の高温性状に関する情報収集により、材料の火災性状、温度と材料物性との定式化などに関する系統的な整備を行い、集大成して「構造材料の耐火性ガイドブック」を刊行した。さらに講習会を実施し、ガイドブックの啓蒙を図った。</p> <p>ガイドブックは、耐火性能設計の確立とその活性化、および新建築技術の開発に多大な貢献を果たすものと評価される。</p> <p>成果の公表は講習会の他、建築学会大会論文投稿、建築雑誌における委員会活動報告、専門雑誌掲載、委員会ホームページにおいて広く公開もしくは公開予定である。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>得られた成果は当初の活動計画の予定通りである。</p>
その他評価すべき事項	<p>各種構造材料種別毎に設置した5WGの活動と、小委員会での活動(全体取りまとめ等)との連携が非常に良好であった。</p>